

道徳科における評価について

	可視	評価規準に基づく把握	数値による評価	記述による評価
道徳的心情	×	—	<p>【学習指導要領上、行わない】</p> <p>生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値による評価は行わないものとする。</p>	<p>【以下の観点から専門的に検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値による評価ではなく、記述式であること。 ・他の児童生徒との比較による相対的評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。 ・他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。 ・個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。 ・発達障害等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。 ・現在の指導要録の書式における「総合的な学習の時間の記録」、「特別活動の記録」、「行動の記録」及び「総合所見及び指導上参考となる諸事項」などの既存の欄も含めて、その在り方を総合的に見直すこと。
道徳的判断力	△	<p>【行動の記録への記入】</p> <p>各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体にわたって認められる児童生徒の行動について、項目を適切に設定し、十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入。</p>		
道徳的実践意欲と態度	△			
道徳的行動	○			
道徳的習慣	○			
問題解決的な学習 (総合的な学習の時間をはじめとする各教科等)	○		○	○
体験的な学習 (各教科等(例えば、インターンシップ、幼児触れ合い体験など))	○	○	○	特別活動の記録

